

# Enterprise Vault™

## IMAP の設定

12.3

# Enterprise Vault™: IMAP の設定

最終更新日: 2018-02-08。

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、Veritas がオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
500 E Middlefield Road  
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP.html](https://www.veritas.com/support/ja_JP.html)

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/vqa](https://www.veritas.com/support/en_US/vqa)

## マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100040095](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095)

## マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

[evdocs@veritas.com](mailto:evdocs@veritas.com)

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

# 目次

第 1 章	本書について .....	5
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先 .....	5
	Enterprise Vault トレーニングモジュール .....	7
第 2 章	IMAP の設定 .....	8
	IMAP について .....	8
	デフォルトの IMAP アーカイブ .....	9
	IMAP の設定とユーザーの IMAP アクセスの有効化 .....	10
	SSL 証明書の取得 .....	11
	IMAP 通知メッセージの編集 .....	13
	IMAP および SMTP エンドポイントの定義 .....	15
	ボルトサービスアカウントへの[Send As]権限の付与 .....	18
	Enterprise Vault サーバーへの IMAP エンドポイントの割り当て .....	19
	IMAP ポリシーの定義 .....	20
	IMAP プロビジョニンググループの定義 .....	20
	IMAP フォルダ制限の確認 .....	24
	クライアントアクセスプロビジョニングタスクとインデックス管理タスクの 実行 .....	25
	クライアントアクセスプロビジョニングタスクのレポートのレビュー .....	26
第 3 章	IMAP ダッシュボードの使い方 .....	28
	IMAP ダッシュボードについて .....	28
	ダッシュボードタブの使い方 .....	29
	[ユーザー]タブの使用 .....	29
	[IMAP の設定]ページの使用 .....	30
第 4 章	IMAP 用の PowerShell cmdlet .....	31
	IMAP cmdlet について .....	31
	IMAP cmdlet の実行 .....	32
	Get-EVIMAPUsers の使用 .....	32
	Get-EVIMAPUserSettings の使用 .....	33
	Set-EVIMAPServerDisabled の使用 .....	35
	Set-EVIMAPServerEnabled の使用 .....	35

# 本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

## Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

表 1-1 に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。</li><li>■ 管理コンソールの [ヘルプ] メニューで [Enterprise Vault のヘルプ] をクリックします。</li></ul>
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。

マニュアル	コメント
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。

マニュアル	コメント
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

## Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

# IMAP の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [IMAP について](#)
- [IMAP の設定とユーザーの IMAP アクセスの有効化](#)

## IMAP について

Enterprise Vault の IMAP 機能により、IMAP クライアントが既存の Exchange のメールボックスアーカイブと、他のメールサービスを使用するユーザー用の新しいインターネットメールアーカイブにアクセスできるようになります。

ユーザーの IMAP アクセスをプロビジョニングして有効にすると、Enterprise Vault は以下を含む通知メッセージをこれらのユーザーに送信します。

- Enterprise Vault によってホストされる IMAP サーバーの接続の詳細情報。IMAP サーバーは Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへのアクセスを提供します。
- 環境にある SMTP サーバーの接続の詳細情報。SMTP サーバーを通じて、クライアントまたはデバイスから発信メールを送信できます。

デバイスをアーカイブにアクセスできるように設定すると、すべての既存のアーカイブ済みの内容にアクセスし、新しい内容を手動で、またはクライアント独自のルールを使って自動でアーカイブできるようになります。

Exchange アーカイブの場合、アーカイブと保持の既存の設定が引き続き有効になります。インターネットメールユーザーのために作成される新しいアーカイブの場合、保持は作成した IMAP ポリシーによって指定され、ユーザーの IMAP アクセスをプロビジョニングして有効にしたときにユーザーに適用されます。



## デフォルトの IMAP アーカイブ

ユーザーが 1 つの IMAP アーカイブに対してプロビジョニングされる場合、アーカイブにログオンするためのユーザー名は、バックスラッシュで区切られるドメイン名と Windows ユーザー名で構成されます。次に例を示します。

EMEA¥JohnDoe

ユーザーが複数の IMAP アーカイブに対してプロビジョニングされる場合、デフォルトのアーカイブにログオンするためのユーザー名も、バックスラッシュで区切られるドメイン名と Windows ユーザー名で構成されます。ただし、その他のアーカイブにログオンするためのユーザー名は、ドメイン名、Windows ユーザー名、識別子で構成されます。次に例を示します。

EMEA¥JohnDoe¥1962

ユーザー名の終わりの識別子は、Enterprise Vault によってアーカイブに自動的に割り当てられる内部の識別子です。

ユーザーが複数の IMAP アーカイブに対してプロビジョニングされている場合は、ルールのセットでどれがデフォルトかを判別します。

新しくプロビジョニングされたアーカイブの場合

- ユーザーが同じ種類 (インターネットメールまたは Exchange) の複数の IMAP アーカイブに対してプロビジョニングされている場合は、デフォルトのアーカイブはプロビジョニングされた最初のアーカイブになる
- ユーザーがインターネットメールアーカイブと Exchange アーカイブの両方でプロビジョニングされている場合、クライアントアクセスプロビジョニングタスクが実行され、インターネットメールアーカイブがデフォルトのアーカイブになる

アーカイブを以前の Enterprise Vault バージョンでプロビジョニングしてから現在のバージョンにアップグレードした場合は、Enterprise Vault が次の優先度の高い順に示されているアーカイブからデフォルトのアーカイブを選択します。

- 最初にプロビジョニングされたアクティブな (閉じていたり削除されていない) Exchange アーカイブ
- 最初にプロビジョニングされたアクティブな (閉じていたり削除されていない) インターネットメールアーカイブ

---

**メモ:** デフォルトの IMAP アーカイブを削除した場合、別のアーカイブが新しいデフォルトとして選択されることはありません。その他のアーカイブにログオンするためのユーザー名は、利用可能なアーカイブが 1 つだけである場合でも、識別子を含める必要があります。

---

# IMAP の設定とユーザーの IMAP アクセスの有効化

Enterprise Vault IMAP アクセスを設定してユーザーの IMAP を有効にするには、ボルトサービスアカウントを使ってログインするか、または IMAP 管理者役割に割り当てられているアカウントを使う必要があります。

詳しくは『管理者ガイド』のロールベースの管理に関する説明を参照してください。

表 2-1 に、IMAP を設定し、ユーザーが Enterprise Vault IMAP アクセスを利用できるようにするために完了する必要があるタスクを示します。

IMAP の初回の設定では、これらのタスクを順に完了し、各タスクについて理解する必要があります。処理に慣れたら、これらのタスクのほとんどをプロビジョニンググループウィザードで完了できます。たとえば、[新規 Exchange メールボックス IMAP プロビジョニンググループ]ウィザードを実行するとき、適切なポリシーがなければポリシーを作成できます。

表 2-1 IMAP の設定とユーザーの IMAP アクセスの有効化

手順	作業	詳細の参照先セクション
手順 1	SSL を使用して保全しようとする各 IMAP エンドポイントの SSL 証明書を入手します。	p.11 の「 <a href="#">SSL 証明書の取得</a> 」を参照してください。
手順 2	ユーザーの IMAP が有効になったときに IMAP ユーザーに送信される通知メッセージを編集する。	p.13 の「 <a href="#">IMAP 通知メッセージの編集</a> 」を参照してください。
手順 3	IMAP エンドポイントと SMTP エンドポイントを定義する。IMAP エンドポイントは、単一の Enterprise Vault サーバーで実行される IMAP サーバーの設定を定義します。SMTP エンドポイントには、Exchange SMTP サーバーのような環境にある既存の SMTP サーバーの 1 つの設定が含まれます。	p.15 の「 <a href="#">IMAP および SMTP エンドポイントの定義</a> 」を参照してください。
手順 4	クライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行するアカウントのログイン資格情報を受け入れるように SMTP エンドポイントを設定する場合は、ボルトサービスアカウントに IMAP 通知メッセージの送信元であるメールボックスの[送信者]権限を付与する必要があります。	p.18 の「 <a href="#">ボルトサービスアカウントへの [Send As] 権限の付与</a> 」を参照してください。
手順 5	IMAP アクセスを提供する Enterprise Vault サーバーに各 IMAP エンドポイントを割り当てる	p.19 の「 <a href="#">Enterprise Vault サーバーへの IMAP エンドポイントの割り当て</a> 」を参照してください。

手順	作業	詳細の参照先セクション
手順 6	IMAP ポリシーを定義する。これらのポリシーはプロビジョニンググループによって IMAP ユーザーに適用されます。それぞれの IMAP ポリシーは、ポリシーでプロビジョニングされるユーザーによって使われる IMAP と SMTP のエンドポイントを決定します。	p.20 の「 <a href="#">IMAP ポリシーの定義</a> 」を参照してください。
手順 7	Exchange と IMAP のプロビジョニンググループを定義する。Exchange IMAP とインターネットメール IMAP プロビジョニンググループは、IMAP アクセスを有効にするユーザーとユーザーグループ、適用する IMAP ポリシーを決定します。インターネットメール IMAP プロビジョニンググループの場合、アーカイブのデフォルトも決定します。	p.20 の「 <a href="#">IMAP プロビジョニンググループの定義</a> 」を参照してください。
手順 8	IMAP フォルダ制限を確認します。	p.24 の「 <a href="#">IMAP フォルダ制限の確認</a> 」を参照してください。
手順 9	クライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行する	p.25 の「 <a href="#">クライアントアクセスプロビジョニングタスクとインデックス管理タスクの実行</a> 」を参照してください。

## SSL 証明書の取得

SSL を使って IMAP 接続を保全する場合は、IMAP エンドポイントとして動作する Enterprise Vault サーバーを認証する SSL 証明書を取得する必要があります。1 つの証明書を使って複数のサーバーを認証することも、それぞれのサーバーに別の証明書を使うこともできます。

承認済み認証局 (CA) からの証明書を要求するのに適したツールを使うことができます。たとえば、Enterprise Vault インストール先フォルダにインストールした OpenSSL を使うことができます。

次の必要条件と推奨事項に注意してください。

- 証明書は、Base64 エンコードの PEM 形式である必要があります。
- SSL 証明書には、IMAP クライアントが接続するエンドポイントの完全修飾ドメイン名を含める必要があります。これは、各エンドポイントでエンドポイントの作成時に割り当てるエイリアスです。
- 2048 ビット RSA キーを推奨します。

次の OpenSSL 構文を使って証明書要求を作成し、2048 ビット RSA キーを使うことができます。

```
openssl req -new -newkey rsa:2048 -nodes -subj  
"/C=country/ST=state/L=locality/O=org/OU=org_unit/CN=endpoint_alias"  
-keyout key_file -out csr_file
```

それぞれの内容は次のとおりです。

- **country** は組織の本拠地である国です。
- **state** は組織の本拠地である都道府県です。
- **locality** は組織の本拠地である市町村です。
- **org** は組織の名前です。
- **org\_unit** は組織の証明書要求部署です。
- **endpoint\_alias** は、ユーザーが IMAP で接続するいずれかのエンドポイントエイリアスの完全修飾ドメイン名です。
- **key\_file** は証明書キーを含むファイルの名前です。
- **csr\_file** は証明書署名要求 (CSR) を含むファイルの名前です。

次に例を示します。

```
openssl req -new -newkey rsa:2048 -nodes -subj  
"/C=US/ST=California/L=Cupertino/O=Veritas Technologies LLC/OU=IT  
Security/CN=imap.example.com" -keyout ev-imap-key.key -out  
ev-imap-csr.pem
```

この例では、2 つのファイルが生成されます。CA に CSR ファイルを送信して、IMAP エンドポイントの以降の設定に備えてキーファイルを維持します。

通常の Enterprise Vault 環境では、負荷分散を使って複数の Enterprise Vault サーバーに IMAP 要求を配布します。そのため、負荷分散に割り当てた単一の完全修飾ドメイン名を認証する証明書を要求するだけで済みます。

たとえば、組織の地理的または組織的な部署をサポートするために複数のエンドポイントエイリアスを使うこともできます。複数のエンドポイントエイリアスを使う必要がある場合は、要求するときにサブジェクトの別名 (SAN) として追加のエイリアスを指定できます。CA から受信する証明書はすべてのエンドポイントエイリアスに使うことができます。または、各エンドポイントエイリアスに別々の証明書を要求することができます。

要求する証明書に、ルート CA に信頼チェーンを確立するためにクライアントに必要なすべての中間証明書が含まれることを確認します。

ほとんどの CA は、PEM 形式 (.pem、.crt、.cer、または .key) で証明書を発行します。別の形式の証明書を受け取った場合は、PEM 形式に変換する必要があります。たとえ

ば、p7b 形式のファイルを受信する場合は、次の OpenSSL 構文を使って証明書を変換できます。

```
openssl pkcs7 -print_certs -in certificate.p7b -out certificate.pem
```

それぞれの内容は次のとおりです。

- **certificate.p7b** は CA から受信した p7b ファイルです。
- **certificate.pem** は作成する PEM 形式のファイルです。

次に例を示します。

```
openssl pkcs7 -print_certs -in cert.p7b -out ev-imap-cert.pem
```

IMAP エンドポイントを設定するときに、作成した証明書とキーファイルを使用します。

---

**メモ:** 各 IMAP エンドポイントを作成して設定するときに、証明書ファイルと関連付けされたキーファイルに個別のメッセージが表示されます。証明書とキーの両方を含む単一ファイルがある場合は、どちらのメッセージに対しても同じファイルを指定します。

---

## IMAP 通知メッセージの編集

Enterprise Vault はユーザーをプロビジョニングして IMAP を有効にするときに、通知用電子メールをユーザーのデフォルトの電子メールアドレスに自動的に送信します。メッセージには、ユーザーが接続できる IMAP サーバーと SMTP サーバーの詳細と、IMAP クライアントの設定に必要な他の設定の詳細が含まれます。

また、Veritas のサポート Web サイトの次の記事へのリンクも含まれます。

<https://www.veritas.com/docs/100040609>

この記事には、一般的な IMAP クライアントとデバイスの設定手順が記載された別の記事へのリンクが含まれています。必要な場合には、テンプレートメッセージを編集して、ユーザーに通知する Enterprise Vault IMAP アクセスに関する別の情報を追加することもできます。

インストール中、サポートされている言語バージョンの IMAP 通知テンプレートメッセージは Enterprise Vault プログラムフォルダ下の次のフォルダに格納されます。

```
Enterprise Vault¥Languages¥Mailbox Messages¥lang
```

**lang** はサポート対象の言語を表します。

サポートされている言語ごとに、通知メッセージが IMAPEnabled.html というファイルにあります。

## IMAP 通知メッセージを検索して編集する方法

- 1 使う IMAPEnabled.html の言語を決定し、ファイルを検索します。
- 2 IMAPEnabled.html を開くのに適したエディタを使って編集します。たとえば、Enterprise Vault プログラムフォルダにインストールされる IMAPNotificationEmailViewer.exe を使用できます。  
p.14 の「IMAP 通知メッセージエディタの使用」を参照してください。
- 3 テキストをレビューし、必要な変更を行います。
- 4 メッセージを保存します。
- 5 クライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行するすべての Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault プログラムフォルダ(たとえば、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault)に、IMAPEnabled.html をコピーします。

## IMAP 通知メッセージエディタの使用

Enterprise Vault は、IMAP 通知メッセージの表示や編集に役立つエディタを備えています。エディタは、IMAPNotificationEmailViewer.exe と呼ばれるスタンドアロンの実行可能ファイルです。このエディタは、Enterprise Vault プログラムフォルダ (C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault など) にインストールされます。

エディタでは以下のことを実行できます。

- IMAP 通知メッセージのプレビューの表示。
- ユーザーに IMAP 通知メッセージを送信するクライアントアクセスプロビジョニングタスクの必要条件を満たしているかどうかを確認するために電子メールの内容を検証します。
- ユーザー独自の必要条件に合うように、メッセージに基本的な変更を加えます。

初めてエディタを実行するときに、Enterprise Vault プログラムフォルダにいずれかの言語テンプレートをまだ入れていない場合は、Enterprise Vault\Languages\Mailbox Messages のフォルダの 1 つからテンプレートを選択するように求めるメッセージが表示されます。または、Enterprise Vault プログラムフォルダにすでに入っている IMAPEnabled.html の複製がエディタに表示されます。

エディタには次の 2 つのペインがあります。

- 通知メッセージを編集できるエディタペイン。
- エディタペインで行った変更の結果をすぐに表示するプレビューウィンドウ。  
メッセージが有効であるかぎり、プレビューペインは変更を表示し続けます。または、発生したエラーを表示します。

IMAPEnabled.html には、次の 2 種類の特別なタグが含まれます。これらのタグは、それぞれを区別できるように異なる色でエディタに表示されます。

- エディタに赤色のテキストで表示される条件付きテキストのタグ。
- エディタに青色のテキストで表示されるプレースホルダのタグ。

赤色の条件付きタスクの `value` 属性は変更できます。たとえば、`ID_SUBJECT` タグには次のような通知メールの件名が含まれます。

```
<INPUT id="ID_SUBJECT" type="hidden" value="Your Enterprise Vault archive is now accessible from any IMAP enabled device" />
```

必要に応じて、「Your Enterprise Vault archive is now accessible from any IMAP enabled device」を異なる値に変更できます。ただし、これらのタグは削除しないでください。

Enterprise Vault は、青色のプレースホルダのタグを使って IMAP 通知メッセージに各ユーザーに固有の値を挿入します。青色のタグは変更しなくてもかまいませんが、IMAP 通知メッセージでこのタグの一部のみを使うように選択できるので、必要に応じて一部のタグを削除できます。

これらのプレースホルダのタグを 1 つ以上削除してテンプレートを保存しようとすると、タグが見つからないことを警告するメッセージがエディタに表示されます。この場合はテンプレートを保存して続行する前に、表示されたタグを意図的に省略したかどうかを確認してください。

通知メッセージでは、デフォルトの IMAP アーカイブ、およびユーザーがアクセスできるその他のすべてのアーカイブの設定を示します。デフォルトでは、デフォルトの IMAP アーカイブのユーザー名は、バックスラッシュで区切られたドメイン名と Windows ユーザー名で構成されます。次に例を示します。

EMEA¥JohnDoe

その他のアーカイブのユーザー名は、ドメイン名、Windows ユーザー名および識別子で構成されます。次に例を示します。

EMEA¥JohnDoe¥1962

デフォルトの IMAP アーカイブのユーザー名の識別子を表示または非表示にするには、[非デフォルトの UN]または[デフォルトの UN]をクリックします。これはプレビュー機能で、エンドユーザーが受信した電子メール内のユーザー名の形式が実際に変更されることはありません。

## IMAP および SMTP エンドポイントの定義

IMAP アクセスを有効にしたユーザーからの IMAP 接続をサポートするには、IMAP エンドポイントと SMTP エンドポイントを定義する必要があります。

**メモ:** IMAP エンドポイントは、Enterprise Vault サーバーでホストされている IMAP サーバーの設定を決定し、ユーザーのアーカイブへの IMAP アクセスを提供します。SMTP エンドポイントには、IMAP ユーザーが環境内の SMTP サーバーに接続するために必要な接続の詳細が含まれています。Enterprise Vault は、Enterprise Vault IMAP アクセスのユーザーに SMTP サーバーを提供しません。

IMAP エンドポイントは、Enterprise Vault サーバーで動作する IMAP サーバーの設定情報を決定し、IMAP クライアントとデバイスからの接続を受け入れます。IMAP サーバーを実行する各 Enterprise Vault サーバーに対して 1 つの IMAP エンドポイントが必要です。

表 2-2 に、各 IMAP エンドポイントに設定する必要がある項目を示します。

表 2-2 IMAP エンドポイントの設定項目

設定項目	説明
エンドポイント名	IMAP エンドポイントを識別する記述名。
エイリアス名	Enterprise Vault サーバーの DNS エイリアス、ホスト名、完全修飾ドメイン名のいずれか。IMAP エンドポイントを関連付ける予定の Enterprise Vault サーバーである必要があります。
ポート番号	サーバーが IMAP 要求に対して応答準備するポート番号。  デフォルトでは、ポート 993 です (IMAPS)。IMAP サーバーへの暗号化されていない接続を許可する場合は、ポート番号を 143 (IMAP) に変更する必要がある場合があります。
[暗号化されていない接続を許可]オプション	デフォルトでは、このオプションは IMAP サーバーが暗号化された接続を必要とするように選択されています。IMAP サーバーへの暗号化されていない接続を許可する場合は、このオプションをクリアします。暗号化されていない接続では、IMAP 要求に対してプレーンテキストのパスワードが送信されることに注意してください。  <b>警告:</b> 安全なネットワーク以外では、暗号化されていない接続を許可しないでください。
証明書	暗号化されていない接続を許可しない場合は、SSL 証明書およびキーファイルを追加する必要があります。  p.11 の「 <a href="#">SSL 証明書の取得</a> 」を参照してください。



SMTP エンドポイントには、IMAP ユーザーが Exchange SMTP サーバーなどの環境内の既存の SMTP サーバーに接続するために必要な設定情報が含まれています。IMAP ユーザーによる接続を許可する各 SMTP サーバーに対して 1 つの SMTP エンドポイントが必要です。

表 2-3 に、各 SMTP エンドポイントに設定する必要がある項目を示します。

表 2-3 SMTP エンドポイントの設定項目

設定項目	説明
エンドポイント名	SMTP エンドポイントを識別する記述名。
SMTP サーバー	SMTP サーバーの DNS エイリアス、ホスト名、完全修飾ドメイン名のいずれか。
ポート番号	SMTP サーバーが接続を受け入れるポート番号。
[暗号化された接続 (STARTTLS) を使用] オプション	デフォルトでは、このオプションは SMTP サーバーとの通信が STARTTLS を使って暗号化されるように選択されています。暗号化されていない通信を許可する場合は、このオプションをクリアします。 <b>警告:</b> 安全なネットワーク以外では、暗号化されていない接続を許可しないでください。
[SMTP サーバーには認証が必要] オプション	SMTP サーバーでクライアントデバイスに対して認証を要求する場合は、このオプションを選択します。
通知用の送信者の電子メールアドレス	クライアントアクセスプロビジョニングタスクがユーザーをプロビジョニングしたときに送信される通知メッセージで使われる返信先アドレス。

設定項目	説明
SMTP サーバーのログイン資格情報	<p>次のいずれかの[SMTP サーバーのログイン資格情報]オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ [匿名で接続]。SMTP サーバーが匿名の接続を受け入れる場合は、このオプションを選択します。このオプションは、[SMTP サーバーには認証が必要]オプションをクリアしている場合にのみ選択できます。</li><li>■ [クライアントアクセスプロビジョニングタスクの実行に使われているネットワークログイン資格情報を使用]。このオプションを選択する場合は、必ずログイン資格情報を受け入れるように SMTP サーバーを設定します。</li><li>■ [次のログイン資格情報を使用]。他の任意の資格情報を使って SMTP サーバーに接続してから適切なユーザー名とパスワードを入力する場合は、このオプションを選択します。</li></ul>

IMAP および SMTP エンドポイントを定義するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [クライアントアクセス]コンテナを展開します。
- 3 [IMAP]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 4 [IMAP プロパティ]ダイアログボックスを使って IMAP および SMTP エンドポイントを作成し、表 2-2 および表 2-3 に示された情報を入力します。

ボルトサービスアカウントへの[Send As]権限の付与

SMTP エンドポイントの[SMTP サーバーのログイン資格情報]オプションを[クライアントアクセスプロビジョニングタスクの実行に使われているネットワークログイン資格情報を使用]に設定する場合は、[通知用の送信者の電子メールアドレス]オプションで指定した SMTP アドレスと関連付けられたメールボックスに、ボルトサービスアカウントの[Send As]権限を付与する必要があります。

たとえば、通知の送信者のアドレスを IMAP-notifications@example.com に設定した場合は、IMAP-notifications@example.com という SMTP アドレスを持つメールボックスに、ボルトサービスアカウントの[Send As]権限を付与する必要があります。

この権限は、Exchange で手動で設定するか、次の手順を使います。

ボルトサービスアカウントの[Send As]権限を付与するには

- 1 次の管理役割が割り当てられているアカウントを使って Exchange Server にログインします。

- Active Directory 権限

デフォルトでは、「組織管理」役割グループのメンバーにこの役割が割り当てられます。

- 2 Exchange 管理シェルを開きます。

- 3 次のコマンドを実行します。

```
Add-ADPermission -Identity mailbox_name -User domain\user_name
-AccessRights ExtendedRight -ExtendedRights "send as"
```

それぞれの内容は次のとおりです。

**mailbox\_name** は、SMTP エンドポイントの[通知用の送信者の電子メールアドレス]オプションで指定した SMTP アドレスを持つメールボックスです。**mailbox\_name** にスペースが含まれる場合は引用符 (") で囲みます。

**domain** はボルトサービスアカウントが属する Active Directory ドメインです。

**user\_name** はボルトサービスアカウントです。**user\_name** にスペースが含まれる場合は引用符 (") で囲みます。

## Enterprise Vault サーバーへの IMAP エンドポイントの割り当て

IMAP サーバーを提供する各 Enterprise Vault について、IMAP エンドポイントを割り当ててからサーバーの IMAP を有効にする必要があります。

サーバーに割り当てる IMAP エンドポイントは、IMAP サーバーの設定を定義します。エンドポイントを割り当てるときに、サーバーの IMAP を有効にすることもできます。有効にした場合、Enterprise Vault は IMAP 接続をすぐに受け入れることができる IMAP サーバーを起動します。

---

**メモ:** 各 Enterprise Vault サーバーは 1 つの IMAP エンドポイントのみホストできます。ビルディングブロック構成では、IMAP サーバーを実行する Enterprise Vault サーバーが、すでに独自の IMAP サーバーをホストしている別の Enterprise Vault サーバーにフェールオーバーしないようにします。

---

### IMAP エンドポイントを割り当てて IMAP を有効にする方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 Enterprise Vault[サーバー]コンテナを展開します。

- 3 IMAP エンドポイントを割り当てる Enterprise Vault サーバーを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 4 [IMAP]タブをクリックします。
- 5 [IMAP エンドポイント]リストから、このサーバーに割り当てるエンドポイントを選択します。[IMAP エンドポイントの詳細]に、選択したエンドポイントの設定情報が表示されます。  
  
一覧に適切なエンドポイントがない場合は、[新規作成]をクリックして新しい IMAP エンドポイントを作成することもできます。
- 6 すぐに IMAP サーバーを起動する場合は、[IMAP の有効化]オプションを選択します。この場合、[OK]または[適用]をクリックすると Enterprise Vault 管理サービスが IMAP サーバーを起動します。

## IMAP ポリシーの定義

Enterprise Vault はユーザーをプロビジョニングして IMAP を有効にするときに、IMAP ポリシーで構成された設定を適用します。各 IMAP ポリシーはユーザーがどの IMAP エンドポイントと SMTP エンドポイントに接続できるかと、ユーザーの IMAP が有効になったときにユーザーに通知を送信するかどうかを定義します。

### IMAP ポリシーを定義する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナを展開します。
- 3 [IMAP]を右クリックし、[新規]、[ポリシー]の順にクリックします。
- 4 ウィザードに従って新しい IMAP ポリシーを作成します。このウィザードでは、次の情報の入力が必要です。
  - ポリシーの名前と説明
  - この IMAP ポリシーでプロビジョニングされたユーザーが使う IMAP エンドポイント
  - ユーザーの IMAP が有効になったときにユーザーに通知メッセージを送信するかどうか
  - この IMAP ポリシーでプロビジョニングされるユーザーによって使われる SMTP エンドポイント。

## IMAP プロビジョニンググループの定義

IMAP プロビジョニンググループでは、指定したユーザーに IMAP ポリシーとその他の設定を適用し、Enterprise Vault への IMAP アクセスを有効にします。

Exchange IMAP プロビジョニンググループを作成すると、Exchange アーカイブのユーザーが IMAP 接続を通じて既存のアーカイブにアクセスできるようになります。また、インターネットメール IMAP プロビジョニンググループを作成して、他のインターネットメールサービスを使うユーザー用に新しいインターネットメールアーカイブを作成することもできます。

Exchange IMAP ユーザーとインターネットメール IMAP ユーザーは、IMAP クライアントからアーカイブにアクセスし、アイテムを手動でアーカイブすることも、クライアントルールを使ってアーカイブすることもできるようになります。

Exchange IMAP プロビジョニンググループとインターネットメール IMAP プロビジョニンググループの両方で、プロビジョニングするユーザーに対して次の設定を指定します。

- ユーザーの IMAP を有効にするかどうか。
- ユーザーに適用される IMAP ポリシー。

インターネットメール IMAP プロビジョニンググループでは、次の設定も指定します。

- ユーザーに対して作成された新しいインターネットメールアーカイブに適用されるインデックスの詳細のレベル。
- ユーザーがアーカイブしたアイテムに適用される保持カテゴリまたは保持計画。  
保持計画を適用する場合、保持計画を使用してユーザーのインターネットメールアーカイブに 1 つ以上の保持フォルダを設定できます。保持フォルダについて詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。
- 新しいインターネットメールアーカイブに使うボルトストア。

Exchange IMAP アクセスとインターネットメール IMAP アクセスの両方で、複数の IMAP プロビジョニンググループを作成してユーザーグループごとに異なるポリシーと設定を適用できます。たとえば、販売部門のユーザー用にあるプロビジョニンググループを作成し、エンジニアリング部門のユーザー用に別のプロビジョニンググループを作成できます。

複数のプロビジョニンググループを作成した場合は、Enterprise Vault によって使われる順序を設定できます。ユーザーが複数のプロビジョニンググループの対象となる可能性もありますが、Enterprise Vault ではそのユーザーを対象とする 1 番目のグループのみを使ってプロビジョニングすることに注意してください。それ以降のプロビジョニンググループからは無視されます。

この機能は、特定の Windows セキュリティグループに含まれるすべてのユーザーの IMAP を有効にし、それらのユーザーのサブセットを除外する場合に便利です。そのためには、有効にしないユーザーを対象とするプロビジョニンググループを作成し、ユーザーの IMAP を有効にしないようにプロビジョニンググループを設定します。このプロビジョニンググループの優先度を最も高くすると、他のプロビジョニンググループによって対象のユーザーの IMAP が有効になることを防ぎます。

---

**メモ:** IMAP が有効になっているユーザーのグループをプロビジョニンググループから削除すると、クライアントアクセスプロビジョニングタスクが実行されたときに IMAP アクセス権が失われます。これらのユーザーが優先度の低いプロビジョニンググループでも対象になっている場合は、クライアントアクセスプロビジョニングタスクが次に実行されたときにアーカイブへの IMAP アクセス権が復元されます。

---

## Exchange メールボックス IMAP プロビジョニンググループの定義

Exchange IMAP プロビジョニンググループを使うと、Enterprise Vault Exchange アーカイブに対してすでに有効化されているユーザーをプロビジョニングし、それらのユーザーに各自の Exchange アーカイブへの IMAP アクセスを与えることができます。

Exchange ユーザーが IMAP アクセスに対して有効化されている場合、それらのユーザーは、自分の Exchange アーカイブ内のすべてのアイテムに任意の IMAP クライアントからアクセスできます。ユーザーはアーカイブを検索でき、IMAP クライアントで設定した任意のメールアカウントから手動またはクライアントのルールを使って新しいアイテムをアーカイブできます。IMAP クライアント上でユーザー各自の Exchange メールボックスからのアイテムがアクセス可能になっていれば、アクセス対象には、それらのアイテムが含まれます。

### Exchange メールボックス IMAP プロビジョニンググループを定義するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [クライアントアクセス]コンテナを展開し、[IMAP]コンテナと[プロビジョニンググループ]コンテナを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]の下で、[Exchange メールボックス]を右クリックし、[新規作成] > [プロビジョニンググループ]をクリックします。  
[新規 Exchange メールボックス IMAP プロビジョニンググループ]ウィザードが表示されます。
- 4 ウィザードの手順に従って新規プロビジョニンググループを作成します。このウィザードでは、次の情報の入力が必要です。
  - プロビジョニンググループの名前。
  - このグループによってプロビジョニングされたユーザーが IMAP に対して有効化されているかどうかと、有効な場合にそれらのユーザーに適用される IMAP ポリシー。適切なポリシーがまだない場合は、新しい IMAP ポリシーをウィザードから作成することもできるのに注意してください。
  - このグループによってプロビジョニングされる個々のユーザーとユーザーグループ。
  - プロビジョニングされるユーザーとグループが属するドメイン用のクライアントアクセスプロビジョニングタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。クライアント

アクセスプロビジョニングタスクがドメインに対して存在しない場合にのみ、これを実行する必要があります。

## インターネットメール IMAP プロビジョニンググループの定義

インターネットメール IMAP プロビジョニンググループでは、インターネットメールユーザーのプロビジョニングを行うことができます。Enterprise Vault ではインターネットメールの新しいアーカイブが作成され、任意の IMAP クライアントからユーザーがアクセスできます。ユーザーはアーカイブを検索でき、IMAP クライアントで設定した任意のメールアカウントから手動またはクライアントのルールを使って新しいアイテムをアーカイブできます。

### インターネットメール IMAP プロビジョニンググループを定義する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [クライアントアクセス]コンテナを展開し、[IMAP]コンテナと[プロビジョニンググループ]コンテナを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]の下で、[インターネットメール]を右クリックし、[新規作成] > [プロビジョニンググループ]をクリックします。

[新規インターネットメール IMAP プロビジョニンググループ]ウィザードが表示されます。

- 4 ウィザードの手順に従って新規プロビジョニンググループを作成します。このウィザードでは、次の情報の入力が必要です。
  - プロビジョニンググループの名前。
  - このグループによってプロビジョニングされたユーザーが IMAP に対して有効化されているかどうかと、有効な場合にそれらのユーザーに適用される IMAP ポリシー。適切なポリシーがまだない場合は、新しい IMAP ポリシーをウィザードから作成することもできるのに注意してください。
  - このグループによってプロビジョニングされる個々のユーザーとユーザーグループ。
  - このグループによりプロビジョニングされるユーザー用に作成される新しいアーカイブに適用されるインデックスの詳細レベル。Enterprise Vault サイトの設定を使うか、このプロビジョニンググループ固有の設定を作成できます。
  - このグループによりプロビジョニングされるユーザー用に作成される新しいアーカイブに適用される保持カテゴリまたは保持計画。
  - IMAP ユーザー用に作成される新しいアーカイブをホストにするボルトストアを選択します。
  - プロビジョニングされるユーザーとグループが属するドメイン用のクライアントアクセスプロビジョニングタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。クライアントアクセスプロビジョニングタスクがドメインに対して存在しない場合にのみ、これを実行する必要があります。

## プロビジョニンググループの優先度の設定

複数のプロビジョニンググループを作成し、一部のユーザーが複数のグループの対象である場合、Enterprise Vault がグループを処理する順序を設定する必要があります。これは、Enterprise Vault がプロビジョニンググループ内でユーザーアカウントを最初に処理するときに、そのユーザーアカウントをプロビジョニングするためです。Enterprise Vault は、ユーザーアカウントが下位の優先度のプロビジョニンググループの対象になったときは、そのユーザーアカウントを無視します。

Enterprise Vault は、Exchange IMAP ユーザーとインターネットメール IMAP ユーザーをプロビジョニングするために、プロビジョニンググループの個別の一覧を使います。

Exchange IMAP プロビジョニンググループ用とインターネットメール IMAP プロビジョニンググループ用には、プロビジョニンググループの優先順位を個別に設定する必要があります。

**Enterprise Vault がプロビジョニンググループを処理する順序を変更するには**

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [クライアントアクセス]コンテナを展開し、[IMAP]コンテナと[プロビジョニンググループ]コンテナを展開します。
- 3 [Exchange メールボックス]または[インターネットメール]コンテナを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 4 [プロビジョニンググループ]の一覧で、グループをクリックし、[上に移動]か[下に移動]をクリックして優先度を上または下に変更します。
- 5 プロビジョニンググループが正しい優先順になるまでステップ 4 を繰り返します。

## IMAP フォルダ制限の確認

Enterprise Vault は、IMAP クライアントに各アーカイブフォルダから返すアーカイブ済みアイテムの数を制限します。Enterprise Vault は、指定した最大数までの最新アーカイブ済みアイテムを返します。

---

**メモ:** フォルダ制限の設定をデフォルト値から変更すると、デスクトップの IMAP クライアントとラップトップクライアントのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。

---

Enterprise Vault サイトプロパティで現在の IMAP フォルダ制限の設定を確認することができます。

### IMAP フォルダ制限を確認する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 2 [詳細]タブをクリックします。



- 3 [一覧表示する設定の種類]リストから、[IMAP] を選択します。
- 4 [フォルダ制限] 設定に割り当てられている値を確認します。

## クライアントアクセスプロビジョニングタスクとインデックス管理タスクの実行

Exchange メールボックス IMAP プロビジョニンググループと、インターネットメール IMAP プロビジョニンググループの設定が終了したら、クライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行する必要があります。タスクがそのスケジュールに従って実行されるまで待機するか、今すぐタスクを実行できます。

インターネットメール IMAP プロビジョニンググループに対しては、Enterprise Vault は、各ユーザー用にインターネットメールアーカイブを作成し(まだ作成されていない場合)、各ユーザーに IMAP 通知メッセージを送信します。プロビジョニンググループに保持計画を割り当て、計画を使用して 1 つ以上の保持フォルダを定義した場合、クライアントアクセスプロビジョニングタスクの実行によって、ターゲットアーカイブ内にこれらのフォルダが作成されます。同様に、保持計画に関連付けている保持フォルダを変更して保持計画を更新した場合、タスクを再度実行してアーカイブにこれらの変更を適用できます。

Exchange メールボックス IMAP プロビジョニンググループの場合、プロビジョニングされた各ユーザーのアーカイブに IMAP を使ってアクセスできるようにするには、このアーカイブに Metadata Store (MDS) がなければなりません。また、MDS では Enterprise Vault による検索 (EVS) をサポートする必要があります。これにより、一部の Exchange アーカイブはすでに MDS 対応になっている可能性があります。

クライアントアクセスプロビジョニングタスクでは、各 Exchange アーカイブが MDS 対応になっているかどうかを確認されます。アーカイブがすでに MDS 対応になっている場合、クライアントアクセスプロビジョニングタスクにより、ユーザーによる IMAP アクセスが有効にされ、通知メッセージが送信されます。アーカイブが MDS 対応になっていない場合は、クライアントアクセスプロビジョニングタスクによって、インデックス管理タスクの次回実行時にアーカイブを MDS 対応にするインデックスサブタスクが作成されます。この場合、クライアントアクセスプロビジョニングタスクの次回実行時に、ユーザーによる Exchange アーカイブへの IMAP アクセスが有効にされます。

---

**メモ:** クライアントアクセスプロビジョニングタスクのレポートを確認すると、タスクが MDS 構築タスクを作成したかどうかわかります。

p.26 の「[クライアントアクセスプロビジョニングタスクのレポートのレビュー](#)」を参照してください。

---

使用環境の状況によっては、プロビジョニングされたすべてのユーザーが IMAP を使用してそれぞれのアーカイブにアクセスする前に次のすべてのタスクを完了しなければならない場合があります。

- クライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行する

- インデックス管理タスクを実行する。なお、[インデックスタスクの監視]ページを使用して、MDS 構築タスクでのインデックス管理タスクの進捗状況を監視できます。
- クライアントアクセスプロビジョニングタスクを再実行する。

#### クライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]コンテナで、クライアントアクセスプロビジョニングタスクを担当するサーバーを展開し、[タスク]をクリックします。
- 3 右ペインで、クライアントアクセスプロビジョニングタスクが実行されていることを確認します。  
  
クライアントアクセスプロビジョニングタスクが実行されていない場合は、タスクを右クリックして[開始]をクリックします。
- 4 右ペインでクライアントアクセスプロビジョニングタスクを右クリックし、[今すぐ実行]をクリックします。
- 5 [標準モード]オプションを選択し、[OK]をクリックします。

#### インデックス管理タスクを実行する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]コンテナでインデックス管理タスクを担当するサーバーを展開し、[タスク]をクリックします。
- 3 右ペインで、インデックス管理タスクが実行されていることを確認します。  
  
インデックス管理タスクが実行されていない場合は、タスクを右クリックして[開始]をクリックします。
- 4 右ペインでインデックス管理タスクを右クリックし、[今すぐ実行]をクリックします。

#### MDS 構築タスクを監視する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [インデックス]コンテナを右クリックし、[インデックスタスクの監視]をクリックします。
- 3 [インデックスタスクの監視]ページで、Metadata Store 構築タスクをクリックして現在の MDS 構築サブタスクでのタスクの進捗状況を確認します。

## クライアントアクセスプロビジョニングタスクのレポートのレビュー

クライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行することにより、ユーザーに IMAP へのアクセスを設定する各ドメインのレポートが作成されます。各レポートには、設定されたユーザーに関する概略情報が含まれます。

このタスクは、Enterprise Vault インストール先フォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) の Reports\Client Access Provisioning サブフォルダにレポートを作成します。

クライアントアクセスプロビジョニングタスクが Metadata Store (MDS) の構築タスクを作成すると、レポートに記載されます。これは、一部の Exchange アーカイブ IMAP ユーザーが、MDS 構築タスクが完了するまで IMAP を使って各自のアーカイブにアクセスできないことを示します。

---

**メモ:** エラーメッセージ「通知の送信のエラー: 操作がタイムアウトになりました」がレポートに表示される場合は、Enterprise Vault サイトプロパティの[電子メール送信タイムアウト]の設定に対して新しい値を指定することを推奨します。詳しくは、『管理者ガイド』の「電子メール送信タイムアウト (サイトプロパティの IMAP 設定)」を参照してください。

---

# IMAP ダッシュボードの使い方

この章では以下の項目について説明しています。

- [IMAP ダッシュボードについて](#)
- [ダッシュボードタブの使い方](#)
- [\[ユーザー\]タブの使用](#)
- [\[IMAP の設定\]ページの使用](#)

## IMAP ダッシュボードについて

管理コンソールは、IMAP エンドポイントが割り当てられた **Enterprise Vault** サーバーの詳細や、IMAP サーバーからのエラーが報告された IMAP セッションのリストを表示する IMAP ダッシュボードを備えています。

IMAP ダッシュボードを開くには、管理コンソールの IMAP ノードをクリックします。Web ブラウザから開くこともできます。

IMAP ダッシュボードには次のタブがあります。

- [\[ダッシュボード\]](#)。ここには、IMAP エンドポイントが割り当てられた **Enterprise Vault** サーバーが表示され、エラーが発生した直近の IMAP セッションがユーザーごとに一覧表示されます。
- [\[ユーザー\]](#)。アーカイブ名またはユーザー名を使って検索できる特定のユーザーの接続の詳細情報を示します。

## ダッシュボードタブの使い方

管理コンソールの IMAP ノードをクリックすることによって IMAP の [ダッシュボード] タブを開くことができます。これは右ペインのダッシュボードを示します。

次のような URL を使用して Web ブラウザから IMAP の [ダッシュボード] タブにアクセスすることもできます。

```
https://ev_server/enterprisevault/MonitorIMAP.aspx
```

**ev\_server** は Enterprise Vault サーバーです。

[ダッシュボード] タブには次のリストが含まれます。

- [IMAP サーバーとそれに割り当てられているエンドポイント] リスト。最初に、このリストには、IMAP エンドポイントが割り当てられた各 Enterprise Vault サーバーのエントリが含まれています。一覧の任意のエントリをクリックして、そのサーバーの情報を表示できます。  
すべてのサーバーの情報に戻るには、[リセット(すべてのサーバーのデータを表示)] をクリックします。
- [ユーザーセッションの情報を表示しています] は、[IMAP サーバーとそれに割り当てられているエンドポイント] リストに表示されるすべてのサーバーのユーザーセッションの詳細を最初に一覧表示します。[IMAP サーバーとそれに割り当てられているエンドポイント] リストにあるサーバーの 1 つをクリックすると、この一覧にそのサーバーのセッション情報が表示されます。

デフォルトでは、[ユーザーセッションの情報を表示しています] の一覧には、IMAP サーバーがエラーを報告する間のセッションのみが含まれます。[エラーだけを表示] オプションをクリアすることによって成功した接続を表示することもできます。

特定のユーザーの接続の詳細情報を検索することもできます。

### 特定のユーザーの接続の詳細情報を検索する方法

- 1 [検索] の一覧で、[アーカイブ名] または [ユーザー名] を選択します。
- 2 参照する接続の詳細情報のアーカイブ名またはユーザー名を入力します。
- 3 [検索] をクリックします。

## [ユーザー] タブの使用

IMAP の [ユーザー] タブは、管理コンソールの IMAP ノードをクリックしてから、右ペインの [ユーザー] タブをクリックして開くことができます。

次のような URL を使用して Web ブラウザから IMAP の [ユーザー] タブにアクセスすることもできます。

```
https://ev_server/enterprisevault/SearchIMAP.aspx
```

**ev\_server** は Enterprise Vault サーバーです。

このタブは、特定の IMAP ユーザーの接続に関する詳細を検索するために使います。

#### 特定のユーザーの接続の詳細情報を検索する方法

- 1 [検索]の一覧で、[アーカイブ名]または[ユーザー名]を選択します。
- 2 参照する接続の詳細情報のアーカイブ名またはユーザー名を入力します。
- 3 [検索]をクリックします。
- 4 結果のリストでは、ユーザー名またはアーカイブ名をクリックして、個々のユーザーの接続の詳細情報を参照します。

## [IMAP の設定] ページの使用

IMAP ダッシュボードの[ユーザー]タブで、ユーザーの名前またはアーカイブ名をクリックすると、Enterprise Vault により、[IMAP の設定] ページがデフォルトのブラウザに表示されます。

[IMAP の設定]の URL は次の形式になります。

```
https://ev_server/enterprisvault/IMAP.aspx?sid=user_SID
```

**ev\_server** は Enterprise Vault サーバー、**user\_SID** はクリックしたユーザーのセキュリティ識別子 (SID) です。詳細を表示するユーザーの SID がわかる場合は、ブラウザに URL を直接入力して開くことができます。Windows アカウントでログインしている、IMAP アクセスが有効にされたエンドユーザーは、sid パラメータを指定しないでこのページを開くこともできます。

[IMAP の設定] ページには、アーカイブにアクセスする IMAP クライアントを設定するために必要な IMAP のすべての設定が一覧表示されます。

デフォルトの IMAP アーカイブのユーザー名は、ドメイン名と Windows ユーザー名で構成されます。次に例を示します。

EMEA¥JohnDoe

このアーカイブのユーザー名には、設定の下での補足で説明するとおり、任意で識別子を含めることができます。ユーザーがアクセスできるその他のアーカイブでは、ユーザー名に識別子を含める必要があります。次に例を示します。

EMEA¥JohnDoe¥1962

---

**メモ:**すでにデフォルトアーカイブにアクセスするよう Outlook などの IMAP クライアントを設定済みで、ユーザー名に識別子が含まれる場合は、設定を変更する必要はありません。

---

# IMAP 用の PowerShell cmdlet

この章では以下の項目について説明しています。

- [IMAP cmdlet について](#)
- [IMAP cmdlet の実行](#)
- [Get-EVIMAPUsers の使用](#)
- [Get-EVIMAPUserSettings の使用](#)
- [Set-EVIMAPServerDisabled の使用](#)
- [Set-EVIMAPServerEnabled の使用](#)

## IMAP cmdlet について

Enterprise Vault は PowerShell cmdlet を提供しており、これを使うと IMAP ユーザーとその設定を表示し、設定済みの IMAP サーバーで IMAP を有効または無効にできます。

[表 4-1](#) では、Enterprise Vault 管理シェルの提供する IMAP cmdlet について説明します。

表 4-1 IMAP cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVIMAPUsers	IMAP 用にプロビジョニングされ、有効にされたユーザーの詳細を表示します。
Get-EVIMAPUserSettings	特定の IMAP ユーザーに関する接続の詳細情報を表示します。

cmdlet	説明
Set-EVIMAPServerDisabled	特定の Enterprise Vault サーバー上で IMAP を無効にします。
Set-EVIMAPServerEnabled	特定の Enterprise Vault サーバーの IMAP を有効にします。

## IMAP cmdlet の実行

IMAP cmdlet を実行するには、まず Enterprise Vault 管理シェルを実行します。これにより、IMAP cmdlet をシェルで使えるようにする Enterprise Vault スナップインがロードされます。

cmdlet ではヘルプが利用できます。たとえば、次のコマンドを実行すると、Get-EVIMAPUsers の詳細なヘルプが表示されます。

```
Get-Help Get-EVIMAPUsers -detailed
```

## Get-EVIMAPUsers の使用

Get-EVIMAPUsers は、IMAP アクセス用にプロビジョニングされ、有効にされたユーザーを一覧表示します。Get-EVIMAPUsers を実行するとき、次の構文を使います。

```
Get-EVIMAPUsers -ArchiveName -NTUserName [<CommonParameters>]
```

次に例を示します。

```
Get-EVIMAPUsers
```

IMAP アクセス用にプロビジョニングし、有効にした Enterprise Vault サイトのすべてのユーザーを一覧表示します。Get-EVIMAPUsers を使って、-ArchiveName パラメータでアーカイブ名を指定して個々のユーザーの詳細を表示したり、-NTUserName パラメータで Windows ユーザーの詳細を表示することもできます。次に例を示します。

```
Get-EVIMAPUsers -NTUserName JohnDoe
```

Get-EVIMAPUsers の出力の例を次に示します。

```
MbxArchiveName : JohnDoe
MbxNTDomain    : EMEA
MbxNTUser      : JohnDoe
SID            : S-1-5-21-1295326745-1955594489-3830948510-1117
EnabledForIMAP : True
ReadyForIMAP   : True
Type           : Internet Mail
```



Get-EVIMAPUserSettings で SID (セキュリティ識別子) を使うと、ユーザーの IMAP や SMTP の接続設定を表示できます。

ReadyForIMAP 値にも注意が必要です。IMAP アクセス用に Exchange ユーザーをプロビジョニングし、有効にするときは、これらのユーザーの既存の Exchange アーカイブが MDS 対応でなければなりません。プロビジョニングでは、アーカイブを有効にするためにインデックスサブタスクが自動的に作成されます。このサブタスクは、次回インデックス管理タスクが実行されるときに処理されます。このサブタスクが処理されるまで、Get-EVIMAPUsers で一覧表示される ReadyForIMAP 値は False です。

インターネットメールアーカイブは、作成時に自動的に MDS 対応になり、ReadyForIMAP 値は常に True です。

## Get-EVIMAPUserSettings の使用

Get-EVIMAPUserSettings は、セキュリティ識別子 (SID) を指定した Windows ユーザーの IMAP と SMTP の接続設定を一覧表示します。Get-EVIMAPUserSettings を実行するときは、次の構文を使います。

```
Get-EVIMAPUserSettings -SID [-FullFormatUserName [<SwitchParameter>]]  
[<CommonParameters>]
```

例 1:

```
Get-EVIMAPUserSettings -SID  
S-1-5-21-1295326745-1955594489-3830948510-1117
```

これにより、指定したユーザーの IMAP と SMTP の接続設定のほか、アーカイブとその状態の詳細情報が一覧表示されます。

```
Archivename           : JohnDoe  
ArchiveOwner          : True  
ArchiveType           : Internet Mail  
IMAP_Connection_Security : SSL/TLS  
IMAP_Password         : Use the password for account: EMEA¥JohnDoe  
IMAP_Port              : 993  
IMAP_Server            : evl.example.com  
IMAP_UserName          : EMEA¥JohnDoe  
ReadyForIMAP          : True  
SMTP_Connection_Security : None  
SMTP_Password         : Not applicable  
SMTP_Port              : 25  
SMTP_Server            : smtp.example.com  
SMTP_UserName          : Not applicable  
WindowsUser           : EMEA¥JohnDoe
```

## 例 2:

```
Get-EVIMAPUserSettings -SID  
S-1-5-21-1295326745-1955594489-3830948510-1117 -FullFormatUserName
```

これにより、指定したユーザーの **IMAP** と **SMTP** の接続設定のほか、アーカイブとその状態の詳細情報が一覧表示されます。`-FullFormatUserName` パラメータには `IMAP_UserName` の識別子が含まれます。`Get-EVIMAPUserSettings` の出力の例を次に示します。

```
Archivename           : JohnDoe  
ArchiveOwner          : True  
ArchiveType           : Internet Mail  
IMAP_Connection_Security : SSL/TLS  
IMAP_Password         : Use the password for account: EMEA¥JohnDoe  
IMAP_Port             : 993  
IMAP_Server           : evl.example.com  
IMAP_UserName         : EMEA¥JohnDoe¥1962  
ReadyForIMAP          : True  
SMTP_Connection_Security : None  
SMTP_Password         : Not applicable  
SMTP_Port             : 25  
SMTP_Server           : smtp.example.com  
SMTP_UserName         : Not applicable  
WindowsUser           : EMEA¥JohnDoe
```

`ArchiveOwner` 値は、指定したユーザーが、一覧表示されたアーカイブの所有者かどうかを示します。`True` は、指定したユーザーがアーカイブを所有していることを意味し、`False` は、指定したユーザーにアーカイブの代理アクセス権があることを意味します。

`ReadyForIMAP` 値にも注目してください。**IMAP** アクセス用に **Exchange** ユーザーをプロビジョニングし、有効にするときは、これらのユーザーの既存の **Exchange** アーカイブが **MDS** 対応でなければなりません。プロビジョニングでは、アーカイブを有効にするためにインデックスサブタスクが自動的に作成されます。このサブタスクは、次回インデックス管理タスクが実行されるときに処理されます。このサブタスクが処理されるまで、`Get-EVIMAPUserSettings` が一覧表示する `ReadyForIMAP` 値は `False` です。

`IMAP_UserName` 値の末尾には、ユーザーがアクセス可能なすべてのアーカイブの識別子が示されます。`-FullFormatUserName` パラメータを指定しているため、この識別子が示されます。このパラメータを指定していない場合、デフォルトのアーカイブの識別子は省略されることがあります。

p.9 の「**デフォルトの IMAP アーカイブ**」を参照してください。

## Set-EVIMAPServerDisabled の使用

Set-EVIMAPServerDisabled は、IMAP サーバーを停止し、Enterprise Vault サーバー上で IMAP を無効にします。Set-EVIMAPServerDisabled を実行するときは、次の構文を使います。

```
Set-EVIMAPServerDisabled -ComputerNameAlternate [<CommonParameters>]
```

次に例を示します。

```
Set-EVIMAPServerDisabled -ComputerNameAlternate ev1.example.com
```

ev1.example.com で実行されている IMAP サーバーを停止し、サーバーの IMAP を無効にします。

## Set-EVIMAPServerEnabled の使用

Set-EVIMAPServerEnabled は、IMAP 用に設定された Enterprise Vault サーバー上で IMAP を有効にし、IMAP サーバーを起動します。Set-EVIMAPServerEnabled を実行するときは、次の構文を使います。

```
Set-EVIMAPServerEnabled -ComputerNameAlternate [<CommonParameters>]
```

次に例を示します。

```
Set-EVIMAPServerEnabled -ComputerNameAlternate ev1.example.com
```

ev1.example.com の IMAP を有効にし、IMAP サーバーを起動します。